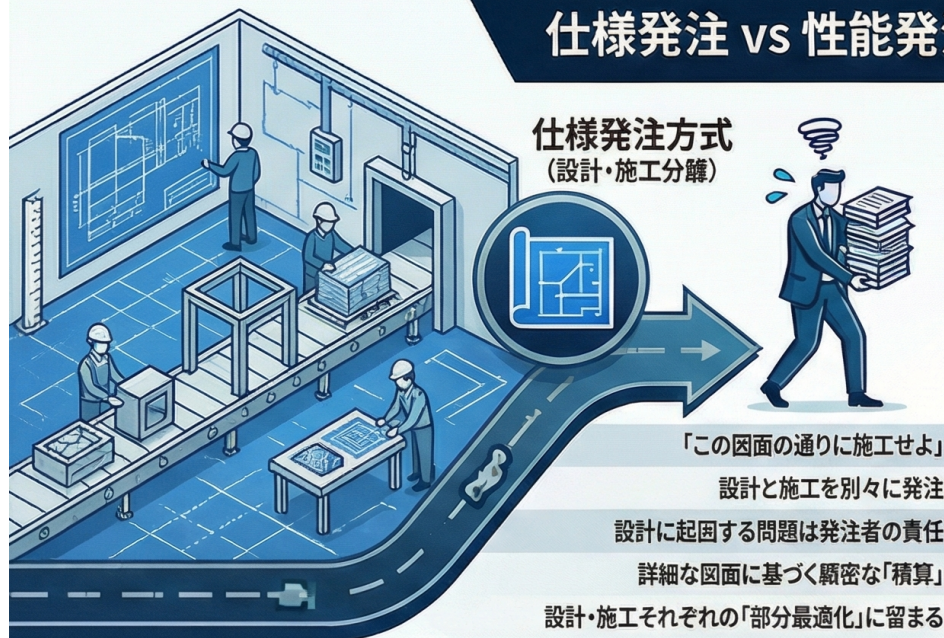


仕様発注 vs 性能発注：日本の公共事業を変える鍵

仕様発注方式 (設計・施工分離)



「この図面の通りに施工せよ」

設計と施工を別々に発注

設計に起因する問題は発注者の責任

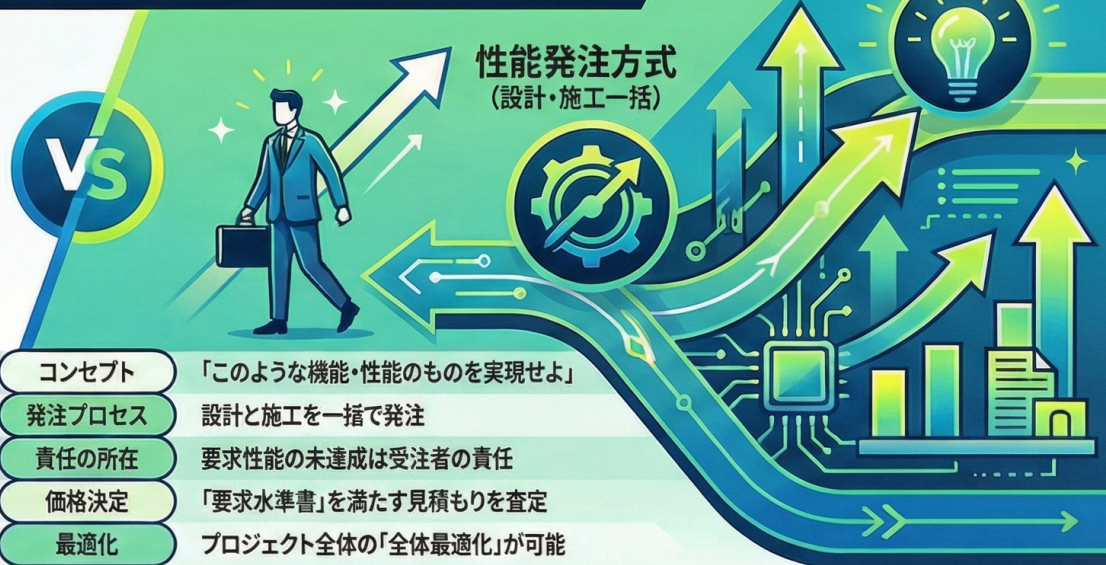
詳細な図面に基づく緻密な「積算」

設計・施工それぞれの「部分最適化」に留まる

創意工夫や新技術の活用が困難

VS

性能発注方式 (設計・施工一括)



コンセプト

「このような機能・性能のものを実現せよ」

発注プロセス

設計と施工を一括で発注

責任の所在

要求性能の未達成は受注者の責任

価格決定

「要求水準書」を満たす見積もりを査定

最適化

プロジェクト全体の「全体最適化」が可能

民間技術の活用

創意工夫や最先端技術を最大値に活かせる

なぜ問題が起きるのか？「仕様発注」がもたらす弊害



【岡山市の事例】
設計ミスの責任を発注者が負い、職員が懲戒処分に



【常陸太田市事例】
設計段階の発注ミスで約4億円の追加工事、全職員が減給



【新国立競技場(当初計画)】
スペック・工事員・工間の「全体最適化」に失敗し計画破綻

成功への道筋：「性能発注」による解決策



【新国立競技場(再設計案)】
「性能発注」で復活・成功



【千葉県柏市の事例】
全国初のモデル！工事を含めた包括的民間委託



【歴史からの教訓：事機】
たった1枚の「計画要求書」から生まれた傑作

自治体への提言：未来の公共事業のために



技術職員ゼロの自治体が1/4に進出時代



包括的民間委託という選択肢



最適解は「性能発注方式」への転換